

乙女小学校 体験農場 サツマイモの 苗植え



●乙女小近くの休耕地を整地して「体験農場」を設ける町農業委員会などの皆さん（写真右）。●苗植えの前に、児童たちはおいをかぐなどして観察（右上）。●先生たちの指導の下、畝（うね）に沿って並んで苗を植える児童たち。●苗植えを終えて、児童たちはペットボトルに水を入れて、苗に水あげ（左下）。

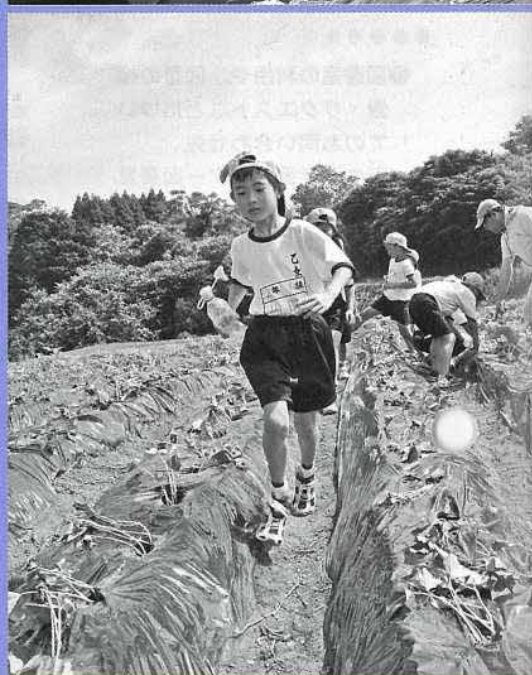


耕作放棄地での乙女小
児童たちによる体験農場

6月17日（木）乙女小学校（河原
邦博校長144人）の体験農場で、
サツマイモの苗植えが行われました。
この体験農場は、同小近くで耕作
放棄地となっている土地（444平
方メートル）を利用。県が実施する「子ど
もたちによる耕作放棄地解消事業」
を活用し、町農業委員会、乙女地区
区長会、同小PTAなどの協力の下、
児童たちの農業体験に取り組みます。
体験で栽培に挑戦する農作物は、
サツマイモと大豆の2種類。児童た
ちはこの取り組みを通して、農業の
大切さや農作物を栽培する大変さを
学び、食育への関心を高めるととも
に、栽培を通じての地域住民との触
れ合いなどを体験学習します。
この日は、1～4年生がサツマイ
モの苗植えを体験。約600本の苗
が準備され、事前に町農業委員会
（奥村一利会長）と地域住民の協力
によって、休耕地だった土地を整地
して設けられた農場で苗植えを実施
しました。

サツマイモの苗を観察
してから苗植えに挑戦

最初に児童たちは、用意されたサ
ツマイモの苗をそれぞれが手にとっ
て観察。苗の大きさや色、形、にお
いなど確かめ、ほかのどんな植物に



似ているかなどを考え、「アサガオの葉のにおいみたい」などと、観察した意見を発表しました。

観察に続いて、苗植えに挑戦。児童たちは畝（うね）に沿って横に並び、先生たちの指導を受けながら苗植えを体験。「大きくなーれ」と声を掛けながら、掘ってある穴に苗を一つひとつ丁寧に植えました。

苗を植え終わると、次は水あげを実施。児童たちはペットボトルに水を入れて、植えた苗に優しく水をあげてまわり、苗植え体験は終了しました。

児童たちの手で大切に育てて収穫する喜びを学ぶ

苗植えを終えて、1年生の男子児童は、「初めて苗を植えたので難しかった。また、やってみたい」と感想。2年生の女子児童は、「みんなで水をあげるなどして、大切に育てたい。できたサツマイモを、おいしく食べてみたい」と話しました。

乙女小では「町農業委員会や地域の皆さんのご協力のおかげで、子どもたちが農業を体験できる立派な畑ができました。今後は、苗を大切に育てる過程でさまざまなことを学習するとともに、みんなで収穫して、サツマイモや大豆を使った料理にも挑戦してみたいと考えています」と話しました。